

令和2～3年度「西脇知事と行き活きトーク」開催実績

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等	京都府の対応(施策化・検討状況)
35	令和3年2月20日	オンライン	地域に活力を生み出す社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・就職や結婚で地元を離れても、オンラインで同郷の人たちとつながり地元の支援ができています ・将来関係人口になるかもしれない地元の子どもたちが、未来へのビジョンを持てる取り組みをしていきたい ・どこで働くかを考えている就活生の立場から、地域の魅力を発信していきたい ・地域に魅力を感じた方との交流を深め、移住・定住に結びつけることが地域の維持・活性化には必要 ・地域で起業した人の事業拡大を支援できれば、そこに雇用が生まれ、移住者が増える流れができそう ・オンラインで副業ができるようになって距離の壁がなくなった。地域外にいても北部地域に愛着を持つ方々の力と想いをつないでいきたい 	<p>【移住・定住】各段階に応じたきめ細やかな支援をオール京都で実施。多様なニーズに対応した移住促進特別区域の拡充。「観光×移住」のイベント開催等、周知度アップによる移住検討者数の増加。市町村と連携した移住者の交流機会の確保や仕事づくり等、移住・定住へのフォローアップ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算「移住するなら京都」推進事業 251,100千円 政策企画部、農林水産部共管(広域振興局の地域振興計画推進事業含む) <p>【市町村連携】市町村がUターンや交流施策と合わせて取り組む地域創生と連携するため、12市町と地方創生推進交付金を共同申請中。</p> <p>【条例】移住者だけではなく関係人口についても地域の担い手として取り込む。市町村が「移住者受入・活躍応援計画」を策定し、移住者、関係人口、地域住民が交流する拠点づくりを実施。 (京都府移住の促進及び移住者等の活躍の推進に関する条例 令和4年4月1日施行予定)</p>
36	令和3年3月20日	古川町商店街	商店街の再生の歴史とこれから	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街ならではのアナログな良さをVRのようなIT技術で伝える、“ハイブリッド商店街”を充実させたい ・“コミュニティの情報源”として、地域社会と商店街が融合して発展していくのが理想 ・コロナ禍で日本の方にも喜ばれるゲストハウスにしようと思えることができた ・商店街でイベントを開催することは、地域の人に親しみを持ってもらったり、買い物の場所を選んでもらったり、つながりを作るきっかけになる ・世代を超えてつながれる商店街の良さを発信していきたい 	<p>【商店街振興】商店街の多機能化や多様な人材の集積、及びネットワークの拡大を推進する取組を支援する事業として、「地域課題解決コミュニティ活性化事業」「商店街に関わる人材育成交流促進事業」を、昨年度から継続して実施するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 新しい商店街づくり総合支援事業費(継) 110,000千円
37	令和3年3月28日	サンガスタジアム byKYOCERA	スタジアムからeスポーツのイノベーションを	<ul style="list-style-type: none"> ・eスポーツを支える環境を整備して、経済的に自立できるプロが育つ体系をつくりたい ・中高生に裾野を広げて一つの文化にしていくために、府や教育委員会にもぜひご協力いただきたい ・eスポーツを見る人が増えれば、地元での認知度も高まり、地元企業を巻き込んだ取り組みも増えると思う ・イベントを配信してファンを増やしていきたい ・支援学校でのICT教育推進を考える中で、eスポーツがその役割を果たす可能性を感じる ・eスポーツで地域を盛り上げたい。そして、子どもから大人まで楽しめるものにしていきたい ・仲間と連携して積極的に対外試合に取り組んでいきたい 	<p>【認知度向上と地域の賑わい創出】サンガスタジアム by KYOCERAが京都のeスポーツの拠点となるよう、大規模大会や人材育成に取り組む事業者にも補助金を交付し、令和4年2月にスタジアムで大規模大会を開催するとともに大会の様子をWEB配信するなど、障害の有無を問わず、老若男女誰でもが楽しめるeスポーツの認知度向上と地域のにぎわい創出の取組を支援。</p> <p>【人材育成】事業者が行うeスポーツのアジアチャンピオンの選手や元プロ選手を講師に招き、実況解説の講座やスキルアップトレーニングなどeスポーツのセミナーを通じた人材育成の取組を支援。</p> <p>【教育現場との連携】中高生の参加拡大や教育現場での理解促進のため、府内の高等学校や教育委員会に働きかけを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 ニュースポーツ・eスポーツ競技環境整備支援事業費(継)112,250千円
38	令和3年7月4日	セブン商店会	子育て応援	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街は地域コミュニティーの核。若い人たちを巻き込みながら「世話焼き商店街」を目指して今後も取り組んでいく ・地域みんなで子育てを支えるための「入り口」の役割を商店街が果たしていきたい ・結婚を機に転入して子育て中。「応援施設」のほりに温かさや心強さを感じている ・子どもが困ったときに「助けて」と駆け込める場所が地域の中に増えるとありがたい 	<p>【子育て応援施設】行政や地域、企業、府民が一体となって子育てをあたたく支える風土づくりを進めるため、令和2年度、令和3年度と子連れ世帯の外出・移動支援に係るモデル事業を実施。引き続き妊婦や子連れ世帯の外出・移動支援の取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 子育てにやさしい風土づくり事業費(継) 36,600千円 <p>【商店街振興】商店街の多機能化や多様な人材の集積、及びネットワークの拡大を推進する取組を支援する事業として、「地域課題解決コミュニティ活性化事業」「商店街に関わる人材育成交流促進事業」を、昨年度から継続して実施するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 新しい商店街づくり総合支援事業費(継) 110,000千円
39	令和3年7月23日	三段池公園	スポーツに親しみ、夢が広がる京都へ	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上教室のお手伝いで試合に行くと、広域から集まってくる相手チームの関係者とも出会いが生まれ、交流の輪が広がっていると実感 ・市ソフトテニス協会でジュニアの育成と高齢者の健康増進に注力。会員同士はもちろん、その家族に至るまで世代を超えた交流が実現している ・部活動では、顧問の先生や地域の皆さん、家族の応援が大きい。頑張る姿を見てもらうことで、交流が広がっている ・車いすハンドボールなどのパラスポーツの体験会を開催。障害の有無を超えて同じ目線で競技できる楽しさに触れている ・実際に体験することによって競技の魅力が味わえる。競技を体験できる機会を広く設けられれば興味を持つ人を増やせるのでは ・気軽な市民スポーツから始め、競技としての面に興味を持ったら大会に挑戦するという人もいる。何歳から始めても遅すぎることはない ・陸上競技を続けていることもあり、地元で全天候型の競技場ができるとうれしい。子どもから高齢者まで夢を持ってスポーツを楽しめる地域になってほしい ・来年のワールドマスターズゲームズ2021関西に出場予定。自身が持つ日本記録の更新を目指したい 	<p>【体験型コンテンツ】「自転車」「カヌー」「トレッキング」コースをPRする「中丹スポーツトレイル」事業の一環として、令和4年度から、健康志向やアウトドア志向を踏まえ、幅広い年齢層が気軽に楽しむことができる電動アシスト自転車(E-Bike)を活用した体験型体験コンテンツの造成に取り組むこととしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 中丹スポーツトレイル推進事業 (継+) 3,000千円 <p>【スポーツの裾野拡大に向けた取組】東京2020オリンピック・パラリンピックの開催により府民のスポーツへの関心や意欲が高まる中で、子どもたちが気軽にスポーツに親しむことができる機会やスポーツを通じて夢や希望を持てるよう、府内プロスポーツチームと連携したスポーツ体験教室や、様々な競技のトップアスリートとの交流等を実施し、スポーツの裾野拡大となる取組を展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業費(一部新規) 12,000千円

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等	京都府の対応(施策化・検討状況)
40	令和3年7月23日	ミッブル	丹後の「あじ」を引き出すまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり「京都」の名にはブランド力があり、その上で、欧米からの観光客には京都に天橋立のようなビーチ(砂浜)があることが大きな強み ・東京で生まれ育ち、縁あって丹後へ。自然景観、食、歴史文化、そしてものづくりの素晴らしさに感銘を受け、すんなり丹後人に ・丹後には魅力的な地域資源が多くある。地元の人には身近すぎて、なかなか気付きにくい魅力に、ぜひ焦点を当てていきたい ・Uターン開業して気付いたのは、人が面白いこと。丹後の魅力は観光地としてだけでなく暮らす人にもあることを、広く伝えていきたい ・大学在学中に与謝野町で起業。会社で、地元のホップを使ったビールを造って販売。地域に雇用を生む存在になるのが目標 ・京丹後市で有機農業を行う一方、学校給食で地元産食材を使ってもらう活動をしている。食を通じて子どもたちが地元に着愛と誇りを持てるよう取り組んでいる ・地元の人が地元の魅力を伝えられるような人づくりをしながら、宮津の暮らしを発信するHPの準備を進めている ・これまで観光客誘致中心だった海の京都DMOを、今年度から「まちづくり支援法人」に進化させ、移住者の交流の場づくりなどにも取り組みたい ・先日、香港の大学と府立海洋高校のオンライン交流で、観光に関する面白い提案があった。若者の柔軟な発想も取り入れていきたい ・食は地域の人の心を育てるもの。丹後の食の力を、今後もより多くの人に発信していきたい ・自分たちで事業を起し、志のある若者たちを採用して、社名どおり地域の旗振り役となって持続可能な地域を作っていきたい ・地域資源の豊かさにあぐらをかくのではなく、常にそれを生かす努力を続ける事業者の存在が丹後の底力。一致団結してPRしていきたい 	<p>【丹後の魅力発信】「地元産食材のプロモーション」や、「移住者や関係人口が地域社会の担い手として活躍できる地域づくり」、「美しい海づくり」等について、令和4年度丹後地域振興計画推進費重点事業として当初予算に計上し、丹後の「あじ」の磨き上げを推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後の周遊観光基盤強化事業(継+)2,500千円 ・「食の京都」丹後いちおし食材プロモーション事業、明日の丹後フルーツ産地強化事業(継+)6,500千円 ・明日の丹後を支える絆づくり事業(継)5,700千円 <p>【DMO】令和3年度DMOの定款を変更し、「まちづくり支援法人」に進化、持続可能な地域づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海の京都」DMO推進事業費 84,250千円 (以下DMO共通) ・「もうひとつの京都」観光周遊カーシェアリング推進事業費 2,800千円 ・「もうひとつの京都」多言語情報発信強化事業費 13,161千円 ・「もうひとつの京都」ダイレクトマーケティング事業費 2,178千円 ・「農・観」連携による地域観光エリア創出事業費 21,700千円(農林水産部共管) <p>【条例】令和4年4月1日施行予定「京都府移住の促進及び移住者等の活躍の推進に関する条例」により、移住者や関係人口、地域住民が交流し活躍する地域づくりを実施予定</p>
41	令和3年7月24日	舞鶴21	物流拠点としての京都舞鶴港	<ul style="list-style-type: none"> ・フェリーが発着する前島埠頭に市民が集い、お客さまの交流が図れるスペースを作ってほしい ・国際埠頭ができて海外からの原材料を直接舞鶴に運べるようになり、輸入業務は大きく改善した ・府の水素エネルギーによる燃料電池フォークリフトの実証事業に参加している。そのノウハウをいろいろと活用していきたい ・サプライヤーを通じて原材料の輸入などで舞鶴港を活用するとともに、さらなる製品開発により荷揚量の増加に貢献したい 	<p>【観光事業】海路からの周遊促進・観光消費拡大のため、観光関係団体等と連携して、観光情報を一元化するとともに、所要時間別コースや二次交通、キャッシュレス対応店等の案内情報を情報提供サイト「京都舞鶴港エリアNAVI」を開設(令和2年度～)</p> <p>【賑わい創出】前島埠頭旅客ターミナルについては、民間事業者とも連携し、新たな賑わいを創出する施設となるよう検討している。</p> <p>【輸出入支援】京都舞鶴港における既存航路の維持や新規航路の誘致を推し進め、基幹航路である韓国航路を核とした戦略的な物流網の構築を推進するため、京都舞鶴港に寄港する船社に対し、寄港に要する経費を支援。 ・令和3年度2月補正予算 京都舞鶴港コンテナ物流機能確保事業費(新)12,000千円</p>
42	令和3年7月24日	北部産業創造センター	地域資源を活用した新産業創出、官・学・民連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の強み(シーズ)と地域の課題(ニーズ)を組み合わせる海外などの先進事例を地域づくりに生かしたい ・北部地域の企業の皆さんと共に、ものづくりで地域を活性化させたい ・小学校高学年から中学生を対象に、体験学習教室をしている。ものづくりの楽しさが伝わるといいなと思う ・北部産業創造センターができたおかげで、超音波探傷器や硬さ試験機などが身近に使えるようになり商品開発の効率化につながった ・日常的にセンターに企業が集まって語り合い、常に化学反応を起こしている状態になれば地域としての底力につながると思う 	<p>【新産業創出】CAEや3Dプリンタなどデジタル技術で製品開発力を強化するため、デジタルマニュファクチャリング研究会やIoT実習セミナーなどを開催。 (研究会会員数:45企業 89名、令和2年度研修実績:45講座 1,197名受講)</p> <p>【企業間連携】地元企業を中心に共同で製品開発を目指す「中丹商品開発部」を定期的に開催。地元企業のニーズから障害を持つ方にも少ない負担で扱えるユニバーサルデザインのハンドプレス機を開発するなど複数の製品開発を実現。コワーキングスペース「コネクト」では、地元企業、市民、学生など延べ4000人以上が利用。</p> <p>【技術支援】新製品開発、品質保証などに取り組む地元企業の課題に対し、技術相談や機器貸付(約90機種)等による支援を実施。 (令和2年度実績:技術相談321件、機器貸付1,211件)</p> <p>【小中学生向け体験教室】将来の産業を担う小中学生向けに「サイエンスキャンプinあやべ」、「あやべ理工系ことはじめ教室」等の体験教室を府内教育機関との連携により開催。 (令和2年度 サイエンスキャンプinあやべ:1講座 20名参加) (令和3年度 あやべ理工系ことはじめ教室:4講座 延べ60名参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 北部産業活性化推進事業費(北部産業創造センター推進事業)(継)37,613千円 <p>【交流会の開催】企業の新商品開発、性能の向上、効率的な生産プロセス等の新たな価値創出の促進を目指し、地域の高等教育機関や企業が有する多様なシーズをつなげ、新たな価値を創出するための交流会を開催 ・令和4年度当初予算 新産業イノベーション推進事業(継) 1,000千円</p>

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等	京都府の対応(施策化・検討状況)
43	令和3年7月31日	文化パルク城陽 サンアビリティーズ城陽	限界に挑むパラアスリート 京都から世界にチャレンジ!	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツを広げるには、気楽にできる機会をつくる必要がある ・東京2020パラリンピックはパワリフをはじめ、さまざまな障害者スポーツを多くの方に知ってもらう最大のチャンス ・先輩に続いて2024年のパリパラリンピックに出場できるよう頑張っている ・パワリフの魅力の一つは、年齢に関係なく挑戦でき、記録も出せること ・女性アスリートにとって、同性のスタッフ・医療関係者が競技団体にいると相談しやすく安心して競技が続けられる ・障害のある方のスポーツはリハビリや生活の目標という点からもとても大切 	<p>【スポーツを気軽(リハビリ含む)に】誰でも参加できる「障害者スポーツのつどい」や「障害者スポーツの体験会」を府内各地で定期・不定期に開催。東京パラリンピックで実施されたポッチャについては、一般社団法人京都障害者スポーツ振興会や府内企業により様々な場所で普及活動を実施。令和4年度には、パラスポーツ参加機会を提供する取組やパラスポーツ大会を開催予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 障害者文化・スポーツ振興費 93,841千円 <p>【パリパラリンピック出場への支援等】パラ・パワーリフティングナショナルトレーニングセンターを運営し、パリ大会出場に向けた練習環境をサポート。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 障害者文化・スポーツ振興費 10,514千円 <p>【女性支援者等の育成】障害者スポーツ指導員養成研修会を開催し、女性を含む支援者の養成を実施。</p> <p>(令和3年度研修会参加者 女性4人/参加者総数24人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 障害者日常生活支援事業費 450千円
44	令和3年8月1日	経済センター	キャリアの振り返りと学び直しについて	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張っている自分に変化が起きて、新しい夢や目標ができるので、まず、第一歩を踏み出すことが大事 ・出産や子育てで仕事を離れている女性が活躍するためにも、リカレント教育は必要とされている ・学び直しで、違うジャンルへの挑戦は次につながるはず ・生涯現役クリエイティブセンターでは、ぜひ地域で「農業に携わってみようかな」と思う人を育成してほしい 	<p>【人材育成】新しい分野への挑戦や農業人材育成に係るリカレント研修等の支援を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度当初予算 生涯現役活躍人材育成支援プロジェクト事業費
45	令和3年10月17日	サンガスタジアム byKYOCERA	スポーツ&ウェルネス構想 の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・競技力向上の支援、健康増進の支援、パラスポーツの支援に注力している。ジュニアアスリート育成では、府外からも注目されている ・健康、子育て・教育、テクノロジー、自然環境を軸に事業を展開。スタジアムを友人や家族が気軽に集い、スポーツや教育を通じてコミュニケーションを育む場所にしていきたい ・例えば園部藩の歴史的な名勝を回ったり、養蜂家を訪ねて蜂蜜を絞る体験をしたり、e-BIKEを使ったサイクルツーリズムを展開している ・スタジアムができ、人の流れに変化が。市域全体を丸ごとスタジアムと位置付け、ニーズを調査し、次のアクションに向けて取り組んでいる ・美山の豊かな自然を生かした「養生場構想」に取り組んでいる。また、健康チェックをして、自分に合った養生方法をお勧めするアプリの提供もしている ・亀岡市と連携し「アクティブヘルス支援機構」を立ち上げた。健康に関する研究成果をまとめ、健康寿命延伸の「亀岡モデル」を確立しようと取り組んでいる ・交流人口が増えて地域が活性化し、子どもたちが自分の地域に誇りを持ち、住み続けたいと思えるようになれば ・健康に対する自分の認識と、客観的な認識がずれている人が病気になる傾向がある。こうしたデータを健康維持に役立てていきたい ・里山と川が織り成す素晴らしい環境を生かし、大学と地域の人たちと一緒に地域活性化を進めていけたら ・スタジアムが府域全体をつなぐ府中北部のゲートウェイになるなら、スポーツコミッション的な機能が必要 ・もっと気軽に、スポーツ医学を体験してほしい。それが実現できる環境や素地は、もう南丹エリアにはあると思う ・全国大会ベスト4の壁を突破したい。さらに上のレベルで戦えるよう、日々の練習を怠らず、努力したい ・サンガスタジアムでは国際大会や全国大会の誘致をさらに進めて、子どもたちに本物のプレーを見てもらいたい 	<p>【WEB広報】京都丹波のイベントや店舗情報、地域資源等の魅力をWEBで発信するとともに、京都丹波の魅力を体感できるイベントブースの出展等を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 京都丹波ブランド強化・発信事(継) 3,520千円 <p>【ウェルネス観光】アクティビティ、地域の食、自然、歴史文化など、京都丹波をまるごと体感することで、心身の健康を増進させるウェルネス観光ツアーを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 京都丹波ファン獲得事業(継) 2,775千円 <p>【観光推進】SNS等の活用により京都丹波の魅力を発信するとともに、京都丹波観光協議会や大丹波観光推進委員会と連携し、周遊・滞在型観光を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 広域観光推進事業(継) 1,275千円 <p>【サイクルツーリズム】京都丹波サイクルートを地域内外に周知するため、サイクルスタンプラリーを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 京都丹波サイクルツーリズム推進事業(継) 1,750千円

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等	京都府の対応(施策化・検討状況)
46	令和3年10月21日	京都サンダー(株)	京都女性起業家賞受賞者と語る ～京都で起業する魅力とは～	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身、起業のきっかけは、とある勉強会。アイデアを持った女性が気軽に相談できる場所やネットワークができればいいと思う ・京都は研究機関や大学とのコラボが簡単にできて、そこにいる優秀な人たちを採用できる機会に恵まれているのはすごく魅力 ・起業といえば、大きなビジネスに育てるイメージがあるが、スモールスタートでチャレンジしてもいい。行政の支援制度もいろいろある 	<p>【他機関と連携した女性起業家支援】「京都知恵産業創造の森」の女性コンシェルジュによる相談窓口の活用等、他団体と連携して女性の支援を行っている。アイデアを持った女性の社会参画を促し、女性起業家の裾野を広げるため、アイデアのブラッシュアップから顕彰・事業化までを中小企業応援隊と連携しながら一貫支援していく。</p> <p>【女性リーダーの育成】地域活動を始めたい女性や、活動を継続・発展させたい女性を対象に、知識やノウハウ等を学んだり、ネットワークを構築したり、広報をしたりする場を提供するなど、活動に対して総合的に支援を行い、様々な分野で活躍する女性リーダーの育成を行う。</p> <p>女性の力による京都の活性化を図るため、民間団体が行う地域における女性の活躍の推進にする事業に対して補助を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 女性の起業・経営支援事業費(継) 8,076千円 ・令和4年度当初予算 輝く女性応援補助事業費(継) 3,000千円 ・令和4年度当初予算 女性活躍応援塾事業費(継) 2,500千円
47	令和3年11月23日	山城総合文化センター	子育て環境日本一山城地域サミット	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てで分からないことがあれば、人に聞いたり、市の相談員さんを頼ったり、そういうのが子育てですごく助かる ・男性社員の育児休業、時間単位で取れる有給休暇など一つずつ実現できたことで、「次は何をしよう」という前向きに働き方を考える雰囲気醸成された ・学校や幼稚園がコロナで休みになったとき、教育面で遅れが出るのではと不安があった ・事業所内にキッズルームを設け、子連れ出勤制度を導入。コロナ禍で託児所が閉鎖された際には、多くの社員が活用した ・昨年度の研究調査では、子どもが保育園に通う母親の約22%が、過度なストレスを感じていたり、うつ症状が重かったり、厳しい状況にあるという結果が出ている ・山城地域の豊かな自然の中で育ち合う取り組みを広げていきたい ・企業が子育て支援に取り組むには、最初の一步のハードルが高い。小さい事からでも始められるような仕組みがあれば ・乳幼児健診が子どもの発達だけでなく、親子セットで心や体の状態を自覚することができるような場になれば ・子育ては人との付き合いが大切。気軽に交流を持てる環境や場所がもっとできれば ・子育ては大変だけれど、すごく楽しいし、得るものがたくさんあるということを、伝えていきたい 	<p>【子育て相談】私立幼稚園が実施する多子世帯やひとり親世帯等の子の利用料減免、育児期の不安を軽減・解消するための保護者向け子育て相談・育児教室等への支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 未入園児保育支援事業費(一部新) 69,058千円 <p>【子育てにやさしい職場づくり】企業の子育てにやさしい職場づくりに向けた伴走支援や多様な働き方を実践する企業への補助等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 子育てにやさしい職場づくり事業費(継) 195,610千円 <p>【子育て世代の交流】地域の子育て支援団体等が行う子育て世代の交流等の事業を支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 地域交響プロジェクト推進費(継) 315,163千円 <p>【子育てにやさしいまちづくり】交流施設の整備等による子どもと親の交流の場づくり等、市町村による子育てにやさしいまちづくりの取組をハード・ソフトの両目から包括的に支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 子育てにやさしいまちづくり事業費(継) 150,000千円
48	令和3年12月4日	日図デザイン博物館	障害のある方がそれぞれの個性や才能を発揮することのできる芸術・文化の持つ力や楽しみ	<ul style="list-style-type: none"> ・障害があることの生きづらさや煩わしさを忘れてしまう。それが心地よくて写真を撮っている ・障害者同士の映像や写真を作るサークルや作業所を探している ・移動や情報のバリアフリーを願っている ・障害のある子供達が自分の力を活かしながら生活していける制度を今以上に整えその子供達の可能性が広がる社会を作ってほしい ・ハンデのある人にしか書けない構図、色づかい。受賞作はまさに「とっておき」の作品 	<p>【障害者芸術振興】障害のある方の芸術活動を通じた社会参加を目指し、きょうと障害者文化芸術推進機構をその推進団体として2015年12月に設立。企画展や講座開催を通じて、作品の魅力発信や様々な支援を行う方を養成するとともに、相談対応を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 障害者文化芸術推進事業費(継) 39,025千円 <p>【移動や情報のバリアフリー】移動・情報バリアフリーのため、府では、同行・行動援護者、手話通訳等の養成事業・その他各種福祉サービス、点字図書館の運営・点字図書等の整備の実施などを行うとともに、福祉のまちづくり条例等によりバリアフリー社会の支援を行っているところ。また、ヘルプマークの普及啓発などを通して、障害のある方の社会参加への支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 地域生活支援事業費、障害者施設運営助成費、ヘルプマーク促進事業費(継) 902,931千円 <p>【障害のある子供達の可能性が広がる社会】令和4年4月から開校予定の井手やまぶき支援学校ほか府内14箇所(分校含む)に支援学校を設置、必要な教育を実施するとともに、令和4年度からは、京都府医療的ケア児等支援センター(仮称)を設置し、医療的ケア児や家族等からの相談に対して助言・支援を実施。また、府立特別支援学校における医療的ケアが必要な児童生徒の通学時の安全を確保するための事業を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 医療的ケア児支援強化事業費(新) 54,000千円(うち令和3年度2月補正予算2,000千円)
49	令和3年12月11日	まちてらすMUKO	都市農業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食に野菜を納め、職業体験を受け入れるなど、地域との関わりを大切にしている。生徒たちが生産者の顔や名前を覚え、見掛けると声を掛けてくれるのがうれしい ・生産者が激減してしまった懸崖菊を作っている。菊を飾る需要を伸ばし、伝統産業として後世に受け継いでいきたい ・高齢化で担い手がなくなった農地を、新規参入者や輪作用の農地を求める農家とマッチングする仕組みができれば ・都市に近いので売り先が多く作物の大半を直接販売。お客さんからの「おいしい」の声がやりがいにつながる 	<p>【農地貸付】農村の過疎化や担い手の高齢化に加え、農地の多くが中山間地域にあるため、耕作条件が厳しく、遊休化が進んでいる。このため、京都府農地中間管理機構において、農業の継続が困難となった農家から農地を借り受け、新規参入者や経営規模拡大のために農地を求めるとして、農地を貸し付ける農地中間管理事業に取り組んでおり、平成26年度から令和2年度までに約2,500haの農地と担い手のマッチングが実現。</p> <p>【相談窓口】京都府農地中間管理機構に、農地の貸し付けを考えている担い手や新規参入を検討している担い手の相談窓口として、各地域に「現地推進役」を配置するとともに、担い手と市町村や機構をつなぐ役割も果たしており、農地と担い手のマッチングを支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度当初予算 農地集積規模拡大支援事業費(うち農地中間管理事業)98,287千円

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等	京都府の対応(施策化・検討状況)
50	令和3年12月15日	文化博物館	京都における若手作家の未来	<ul style="list-style-type: none"> ・制作・仕事・家庭のバランスの取れた生活を目指している ・教育現場で芸術家と触れ合えればアートが身近になると思う ・日本の伝統芸能や現代美術に惹かれ、日本に来た ・現代美術の表現の多様化に合わせて展示会も変化が必要 ・女性アーティストの活躍や交流など開かれた拠点となってほしい ・京都で美術批評家やギャラリストと交流できれば ・経済界からも才能を伸ばすための仕組みや支援をしていきたい 	<p>【教育現場との連携】 小・中学校や地域の文化施設との連携し、学校に芸術家を派遣することで、子ども達に芸術・文化体験授業を実施 ・令和4年度 文化を未来に伝える次世代育み事業費(継)24,000千円</p> <p>【交流の場の創出】 京都を拠点に活動する若手作家の作品購入や展示会や制作支援など企業との連携事業に繋げるため、若手芸術家と芸術活動に関心を持つ企業経営者等との交流会を開催す取り組みを実施。 ・令和4年度当初予算 京都アートラウンジ開催費(継)4,000千円</p> <p>【アートフェア】若手作家自身が出展者として参加するアートフェアを開催し、美術批評家やギャラリスト、コレクター等との交流の場を創出 ・令和4年度当初予算 ARTISTS'FAIRKYOTO開催費(継)30,000千円</p>
51	令和3年12月22日	西坂公民館	女性が輝く農林業	<ul style="list-style-type: none"> ・起業するに当たって女性でも男性でもワーク・ライフ・バランスをとるのが難しい ・価格の補助制度などがあれば新しく始められる人も、相場に左右されず、経営も安定しやすくなるのではないかと ・作物を作る以外の環境整備(トイレなど)にもフォローが入ってくれとうれしい ・日本の食文化は世界的にも注目をされている。特に京野菜は世界的にもブランドになり得るものがたくさんあるため、世界に発信していきたいと思っている ・輸出などの取組も力を入れられたらなと思っている ・農業や野菜に関してだけでなく、全般についても発信していきたい 	<p>【経営の安定】新規就農者など、経営が不安定な生産者を支援するため、野菜等の価格等が下落した際には、過去5年間の市場価格の平均額の80～95%(品目等により異なる)を上限に補給金を交付。 ・令和4年度当初予算 農産物価格安定対策事業 14,811千円</p> <p>※国の収入保険制度は、全ての農産物について、価格の低下による販売収入の減少を広く補償しており、京都府においても、農業者の経営安定化を図るため、農業共済組合と連携して加入の推進を支援。</p> <p>【女性の働きやすさ】女性の農業への参入を一層促進するためには、更衣室やシャワー室、トイレなど女性の雇用に必要となる職場環境整備が重要であることから、新たな事業の立ち上げや経営拡大を図る農業経営体が行う農業用施設や機械の整備に関する取組に対して、これらの整備に係る経費の40%以内(上限額概ね300万円)を支援。 ・令和4年度当初予算 農業経営体等女性雇用促進事業 5,400千円</p>
52	令和4年1月15日	長岡京市立中央公民館	「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」～乙訓の笑顔あふれるまちづくり～	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が社会に出ていくことが大事だと思うので、集まれる場所をより増やしたい ・介護・福祉事業に携わる方々の話を聞いていると「この仕事が好きだ」「生きがいだ」という方が多く、その思いを大切に活動したい ・幅広い世代が一つの家族のように交流できる地域になれば ・育休の取り方なども、企業が柔軟に対応する仕組みが社会全体でできれば ・男性育休なども、制度と同時に取得しやすい雰囲気づくりが必要。安心して働ける環境があつてこそ、仕事で良いパフォーマンスが発揮できる ・近くに育児支援センターが多く、育休中の相談や交流は助かった ・お母さん方が元気でつらつとしているのを感じる。その背景にあるのが、「子育てにやさしいまちづくり」なのだと思う ・防災の面では、頻発していた水害が「いろは吞龍トンネル」一部供用でかなり減り、安心感も向上。区画整理事業なども進み、町の躍動感を感じている ・魅力ある企画展や、付近の文化財とコラボした企画で誘客につなげ、地域を元気にするお手伝いをしたい ・乙訓に点在する自然や文化財などを結んで、より魅力を体感できるよう発信したい 	<p>【観光振興】「竹の里・乙訓」として、乙訓ゆかりの歴史、文化、自然等の魅力の発信を府観光室と連携し推進。(乙訓では、DMOはないものの、従前より観光協会・商工会からなる「乙訓商工・観光協議会」を組織。2市1町、府も参画して商工・観光を推進)</p> <p>「竹の里・乙訓」かぐや姫観光推進事業として、昨年度から、「京都乙訓いとかし」Webサイト作成、サイクリングマップ作成等を実施。観光施設等を点ではなく、面として乙訓を周遊観光できる仕掛けを構築。 3月～5月に掛けて、乙訓の飲食店や観光施設を密を避けながら周遊し、乙訓全体の賑わいを創出するスタンプラリーを2市1町のイベントとの連動開催を予定しており、市町の観光施策との相乗効果を図る取り組みを広げていきたいと考えている。 また、新たに「食の京都」として、地場産食材等の魅力発信による誘客や賑わいの創出を進めていきたいと考えている。</p>